

各 位

会 社 名 アクモス株式会社  
 代 表 者 名 代表取締役社長 飯島秀幸  
 (JASDAQ・コード 6888)  
 問 合 せ 先 執行役員 経営企画室長 中川智章  
 電 話 番 号 03-5217-3121

### 第 25 期経営計画に関するお知らせ

当社は、平成 27 年 8 月 4 日発表の「平成 27 年 6 月期 決算短信」において、第 25 期(平成 27 年 7 月 1 日～平成 28 年 6 月 30 日)の業績予想を発表いたしました。その業績予想の根拠となっております、第 25 期の経営計画について、下記の通りお知らせいたします。

#### 記

#### 1. 事業環境と中期経営計画の位置づけ

我が国の経済環境は、政府の成長戦略に基づく金融・財政政策等の推進により大手企業を中心に企業収益の改善や雇用増加の兆しがみられるなど、景気の回復傾向は続いております。しかしながら、中国や新興国の成長鈍化の影響等、世界経済の動向による国内経済への影響は引き続き注視していく必要があります。

当社グループの主要事業である情報技術分野においては、IT 投資の回復に伴いシステムの再構築や統合においてクラウドサービスの需要の増加やスマートデバイスの普及からビジネスシーンでの活用も増えてきております。また、IoT (Internet of Things) や M2M(Machine to Machine) など、インターネットを介して様々なデバイスや産業機器がつながることにより、データの分析結果の活用、セキュリティ分野への関心が高まりつつあります。

このような状況の下、当社グループでは、第 23 期から 3 か年にわたる中期経営計画を策定し、この 3 年間で再生から成長、創造への期間として位置付け、既存事業の収益力を強化しつつ、成長分野の取り込みを図り、持続的・創造的イノベーションを可能とする事業基盤の構築を目指してまいりました。

#### 2. 中期経営計画の修正

初年度の第 23 期は「再生」、昨年度の第 24 期は「成長」を年度テーマに取り組んでまいりました。第 24 期はシステムインテグレーション分野で事業化を進めてきた **SYPROBUS-F** シリーズ・消防通信指令システムを 5 消防本部に、消防関連システムを 1 消防本部に納入したこと等から、連結売上高は中期経営計画の目標値とほぼ同額の 4,003 百万円(前年対比 11.9%増)となりました。

しかしながら、消防通信指令システム開発案件においては、仕様変更の対応等による工程見直しの影響や納品後に消防通信指令システムと車両動態管理システムの連携上の障害など不具合への対応等を継続したことにより不採算プロジェクトとなった案件もあったことから、第 24 期の連結営業損失は 131 百万円、連結経常損失は 128 百万円、連結当期純損失は 298 百万円となりました。

以上のことから、消防通信指令システムを中心とする **SYPROBUS-F** シリーズの事業計画について採算面を重視し大幅に見直したことにより、第 25 期の中期経営計画の目標数値を下記の通り修正いたします。

	第 25 期 (平成 28 年 6 月期) 中期経営計画における 当初計画	第 25 期 (平成 28 年 6 月期) 今回予想	差異
売上高	5, 000 百万円	3, 800 百万円	△1, 200 百万円
営業利益	400 百万円	65 百万円	△335 百万円
経常利益	355 百万円	60 百万円	△295 百万円
親会社株主に帰属する 当期純利益	200 百万円	30 百万円	△170 百万円

(注)本資料に含まれる将来の計画に関する記載は、本資料の発表日現在において、入手可能な情報及び将来の事業環境にかかわる仮定に基づき作成しており、実際の業績は様々な要因により計画と異なる場合があります。

### 3. 第25期 経営計画の概要

第25期は、第23期から始まった中期経営計画の最終年となります。第23期に「再生」、第24期に「成長」とテーマを掲げ実施してきた施策を継続するとともに、第25期のテーマ「創造」を目指して、新しい価値や顧客を創造すべく、積極的な戦略展開に重点を置き、基本方針を策定いたしました。

#### (1) 基本方針

##### ① 成長分野の取り込み

第24期に引き続き、首都圏での営業活動を推進し、Java/Android 開発分野の他、アライアンス活用によるクラウド構築サービスや自社のクラウドサービス **SYMPROBUS Cloud** の新規顧客の開拓に努めてまいります。また、**SYMPROBUS** ブランド製品の開発を継続し、タブレットやスマートフォンで活用できる業務用アプリケーションの開発を進めてまいります。GISソリューションでは、GEOSIS、GGISのパフォーマンス向上を目指し、よりお客様にとって使いやすいシステムの提供を図ってまいります。また、他社とのアライアンスにより、防災分野等でのGISを活用したアプリケーションの開発を進めてまいります。

##### ② 既存事業の収益力強化

ITソリューション事業においては、顧客へのプラスワンサービスにより既存事業の基盤となる顧客との絆を強め、自社の特長を活かす強みを強化して活用するとともに、人材の確保と育成に注力していきます。また、利益率の高いサービスの構成比を高め、受注開発案件のリスクマネジメントを強化することで、収益力の強化を図っていきます。

ITサービス事業においては、既存事業の生産性・品質向上による競争力強化を図るとともに、コストの適正化を進めてまいります。また、営業体制の強化により、新規案件獲得を目指します。

##### ③ 迅速な意思決定体制とリスクマネジメント

ミドルマネジメント層の育成を継続し、リスクマネジメントと組織管理体制の強化を図ってまいります。アクモス株式会社においては、組織を事業本部・営業本部・管理本部の三つの本部を中心とした機能別組織とし、小集団部門別採算制度による全員参加型のマネジメントシステム(A-WING)を導入することにより、次世代リーダーの成長を図ってまいります。

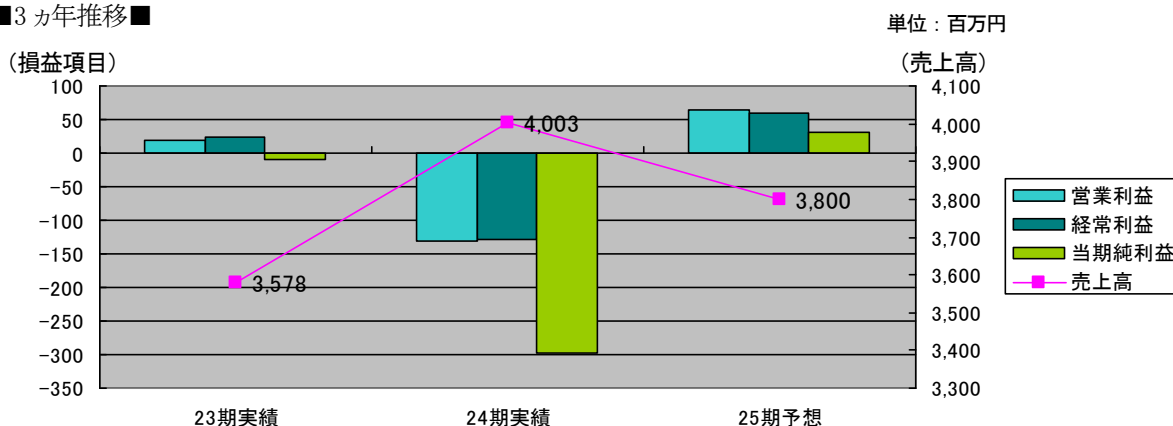
##### ④ ロードマップによる社員のステップアッププラン

第24期に引き続き、戦略重視型の人材育成を進めるとともに、刷新した人事制度の運用による社員の成長の可視化と目的意識の向上、キャリアサポートの充実を図ってまいります。

#### (2) 経営目標 (定量目標)

	第23期 (平成26年6月期) 実績	第24期 (平成27年6月期) 実績	第25期 (平成28年6月期) 予想
売上高	3,578百万円	4,003百万円	3,800百万円
営業利益	20百万円	△131百万円	65百万円
経常利益	23百万円	△128百万円	60百万円
親会社株主に帰属する当期純利益	△9百万円	△298百万円	30百万円

#### ■ 3カ年推移 ■



以上

(注)本資料に含まれる将来の計画に関する記載は、本資料の発表日現在において、入手可能な情報及び将来の事業環境にかかわる仮定に基づき作成しており、実際の業績は様々な要因により計画と異なる場合があります。